

エン
の
リス
ス



テキストのみ

作 *Lewis Carroll* ルイス・キャロル
訳 *Yu Kubo* 大久保 ゆう

えほんのアリス

ルイス・キャロル さく

おおくぼゆう やく

むかしむかし アリスという おんなのこが いてね、 とっても へんてこな ゆめを みたんだ。

いったい どんな ゆめだったか、 ききたい？

さあて、 これが はじめの ばめん。 しろうサギが すぐそばを おおあわて で はしっていくところ、 アリスと すれちがいざま あしを とめて ポケットの とけいを とりだしてね。

そんなの おもしろくないって？ よく みてごらんよ、 ウサギが とけいを ポケットに いれて もちあるいてるんだよ？ そりゃあ ウサギだって とけいをもつなら ポケットに いれるってもんさ。 くちに いれたって もちはこべないしね —— それに はしりまわるんなら、 てが たりなくなるし。

あと おめめが あかくない？ (しろうサギって みんな おめめが あかいとおもうんだけど。) みみも あかい、 きている うわぎは すてきな ちゃいろ、 それにほら ポケットから あかい ハンカチが のぞいてる。 ほかにも あおの ネクタイやら きいろの チョッキとか、 ほんとに とっても おしゃれで。

「やんぬるかな！」と ウサギさん。「ちこくで おじゃる！」 いったい どこへちこくしそうなのかな？

うん、 それはね ごぜんさまの ところなんだ。(もうちょっとしたら だいどころにいる そのひとの えが でてくるからね。) ごぜんさまはね いつも いらいらしてる おばさまのこと。 ウサギさんは またせたりしたら ひどく しかられるって おもってね。 かわいそうに これでもかっくらい びくびく。(どんなに ぶるぶるしてたか わかる？ ちょっと ほんを ゆすってごらん、 みぎひだりに。 ほら、 ぶるぶるしてる。) だってね ウサギさん ばつとして くびを ちょんぎられるかもしれないんだよ。 ハートの クイーンが いつも やることなんだけど、 はらを たてたら ちょきん(さしえは また あとでね)。 といっても そのひと いつも ちょんぎれって いいつけるだけで、 そうなると おもいこんでるんだけど じつは だあれも そんなこと しない。

はてさて、 しろうサギが はしりぬけていったんだけど、 アリスは そのさきが きになってね。 だから ついてったんだ。 で、 はしって はしっていると いきなり ウサギあなに おっこちちゃって。

ずっと ずーっと おちつづけてね。 ぴゅーうーうーうー、 このまま せか

いを まっすぐ つきぬけて、 うらがわに でちゃうんじゃないかって アリスは そんな きがしてきて！

ふかい ふかい いどみたいなのに おみずは ぜんぜん なくって。 こんなところへ ほんとに おちちゃったら どんなひとだって きっと しんじょう。 でもほら ゆめのなかだから おちたって けがひとつ ない。 だって おちてると おもってるあいだも ほんとは よこになって なんのこともなく ぐっすり ねむってるだけなんだから！

それでも いつかは あなのそこに たどりつくわけで、 アリスは うずたかく つまれた おちばと えだのうえへ どすん。 けがひとつ なく ぴよんと おきあがると また ウサギのあとを おいかけたんだ。

こうして アリスの へんてこな ゆめが はじまったってわけ。 こんど しろウサギを みかけたらね、 アリスちゃんみたく へんてこな ゆめを みてみたら いいんじゃないかな。

というわけで アリスは ウサギあなを おっこちたあと じめんのなかを えんえん はしってたんだけど、 きがついたら いきなり おおきな ひろまに いてね、 まわりに ぐるりと ドアが いっぱい。

ところが どのドアも かぎが かかってて。 てことは かわいそうに アリスは ひろまから でられない。 だから なんだか かなしくなってきたね。

それでも しばらくしてから テーブルのそばに いて。 ぜんぶ ガラスでできていて さんぼんあし（さしえでは 2ほんが はっきり、 のこりの 1ぽんが ちらっと みえてるよね、 わかる？）、 で そのテーブルのうえに ちっちゃな かぎが あった！ ひろまを ぐるりと まわって、 これで ドアが どれか あかないか ためしてみたんだけど。

かわいそうな アリス！ そのかぎ どのドアも ひらけなくって。 でも さいごに やってきた ちっちゃな ドア、 するともう うれしいのなんの、 かぎが ぴったり あったんだ！

そのちっちゃな ドアを あけて、 しゃがみこんで なかを のぞきこんだんだけど、 なにが みえたとおもう？ もう と一つても すてきな おにわで！

そこに いくたくって いくたくって！ なのに ドアが ちっちゃすぎるんだ。 からだを おしこんでも とてもむりで。 きみが ねずみの すあなに はいれないのと おんなじこと！

かわいそうに アリスちゃんは しっかりとじまりして、 かぎを テーブルにもどしてね。 すると さっきまで なかったものがあるってことに きがついて（もういちど さしえを みてね）、 これ いったい なんだとおもう？ こびんだよね、 ラベルが ついていて そこには 「ノンデ」の もじ。

そんなわけで くちを つけてみる。 すると とっても おいしくて、 あらためて いっきのみ。 そのあと もう へんてこなことになってさ！ おもってもみないことだよ。 ふふ、 じつはね。 アリスが ちいさく ちいさくなっているって、 さいごには ちっちゃな おにんぎょうさんくらいの おおきさになったんだ！

そこで ひとりごと。「あら このおおきさなら ちいさな あのドアも うまく とおりぬけられてよ！」ってことで はしりだす。 でもね たどりついた ドアは あかないわけで、 かぎは テーブルのうえ、 しかも これじゃあ とどかない！ どうして しっかりとじまりなんか しちゃったんだろうね！

はてさて、そこで また みつけたのが ちっちゃな パンケーキ。こんどは
こげあとが 「タベテ」って ことばに なってて。なので さっそく たべて
ぜんぶ のみこんだ。そのあと どうなったと おもう？ うん、おもいも
よらないこと！ ふふふ、じつはね。

アリスは おっきく おっきーくなっていったね。せなんか もとよりも た
かくって！ こどもよりも おっきく！ おとなよりも おっきく！ ぐんぐん に
よきによきと！ えを みてごらん、こんなに のびちゃってさ！

いったい どっちがいいと おもう？ ネコちゃんくらいの おおきさの ちっ
ちな アリスと、 てんじょうに あたまを ぶつけっぱなしの おっきな アリス

。

3 なみだまり

もしかして アリスが たのしんでるとか おもってる？ ちいさい パンケーキを たべて きづいたら とんでもなく おっきくなってたからって。 そりゃあ なんなく ガラステーブルから かぎを ひろえるし、 ちっちゃな ドアも あけられるけど。

うん そりゃあ できるとも。 でもね、 とおれないのに ドアを あけて どうなるって いうの？ ひどいってもんじゃないよ、 かわいそうに！ あたまを ゆかちかくまで ひくくすれば、 かためで なんとか のぞけるくらいなんだ！ でも できるのは それだけ。 こう おおきくなってしまうと、 すわりこんで、 むねが さけそうなくらい おおごえで なくのも むりない はなしさ。

えーん えーん ないて。 そのうち なみだが ひろまの まんまんなかに こぼれて行って、 かわが ながれるみたいになって。 あっというまに おおきな なみだまりが できて、 ひろまの はんぶんが ひたっちゃった。

もう どうしようもないとこだったんだけど、 そこへなんと たまたま しろウサギが ごぜんさまのもとへ むかうところ このひろまを とおりがかったんだ。

めいっばい めかしこんでて、 かたてには しろの かわてぶくろ ひとくみ、 もう かたてには ちいさな おうぎ。 ぶつぶつ ひとりごとを 言っててね、「あいや、 ごぜんさま、 ごぜんさま！ おまたせして かんかんだなんて いやでおじゃる！」

なのにさ アリスに めもくれずで。 そこで くちを あけて 「もし、 よろしくって ー」 なんていうと てんじょうから こえが してるみたいで。 なにせ あたまが たかーいところに あったからね。 すると ウサギは ものすっごく おびえて。 てぶくろと おうぎを とりおとして、 ぜんそくりょくで にげてった。

そこで ほんっと へんてこなことになって。 アリスが おうぎを とりあげて じぶんで あおぎだしたんだ。 すると ごらんあれ、 みるみる ちいさくなって、 1ぷんも したら ネズミくらいのおっきさに！

ここで さしえを みてね。 つぎに おこったこと もう わかるよね？ ほんとに うみみたい、 ね？ でも まちがいなく これは さっきの なみだの いけ ー ぜんぶ アリスのなみだで できたものなんだ！

そういうわけで アリスは いけに ぼちゃん。 ネズミも ぼちゃん。 いろんなのが いっしょになって およいでる。

このえの およいでる アリス、 かわいくなあい？ みなもの したあたり、
アリスの あおい くつした みえるよね？

でも このネズミ どうして こんなに あわてて およいで アリスから はな
れようとするのか。 はて そのわけは、 アリスが イヌネコについて はなしだ
したからなんだ。 ネズミは いつだって イヌネコの はなしなんか いやだか
らね！

きみが じぶんの なみだで できた いけを およいでるとして、 そこで だ
れかが おべんきょうとか おくすりのことを はなしだしたら、 やっぱり めい
っぱい およいで どこか いっちゃいたくならない？

アリスと ネズミが なみだの いけから あがると、 やっぱり ずぶぬれで。 たくさんいた へんてこ いきものたちも おんなじで、 みんな いっしょに おっこちててね。 そこにいたのは ドードー（まんまえに いる おおきな とりで、 つえに よっかかっているね）、 それと アヒルに インコ（アヒルの まうしろで あたまごしに みる やつね）、 あと こどもワシ（インコの ひだりがわに いる やつ）とか そのほか いろいろ。

さてところで そのみんなだけど どうやって からだを かわかしたのか さっぱり わからなくて。 けれども ドードーが —— あたまの いい とりだから —— どーどーめぐりを するのが よろしい なんて 言ってね。 いったい なんのことだと おもう？

わからない？ だったら きみは まだまだ こどもだね！ じゃあ よおく きいてね、 すぐに ちゃんと わかるから！

まずは はしる コースを つくること。 そのかたちは まるなんだけど とりあえず ちゃんと まるになって ひとつに つながってれば なんでもいい。

とにかく やるひとは コースの あちこちに たって、 くつつきすぎなければ なんでもよくて。

しかも 「いちについて よーいどん！」なんて かけごえも いらなくて、 みんな すきなときに はしりだせばいいし、 すきなときに やめていい。

そこにいた いきもの、 アリスと みんなは ぐるぐる はしりっぱなしで それを かわききるまで つづけたんだ。 で、 さいごに ドードーが みんなのかちって 言って、 みんな ごほうびが もらえることに！

もちろん アリスが ごほうびを あげる やく。 とはいえ あげるほどのものも なくてね、 たまたま ポケットに ドライフルーツが あったもんだから、 ひとりひとつずつ みんなに わけた。 すると アリスのぶんの ごほうびが たりなくて！

そこで どうなったと おもう？ あと アリスが もってたのは、 おさいほうの ゆびぬきだけ。 ほら さしえを みて、 どうなったか わかるよね。

「こっちへ かしなされ。」って ドードーが いった。

で、 ドードーは ゆびぬきを うけとって、 また アリスに かえして、 こんなことば。「みごとな このゆびぬきを われらより おうけとりくださいませ！」というわけで そのばの いきものが ぱちぱち わーわー。

こんな へんてこな おくりものって ある？ かんがえてもみてよ、 おたんじょうびプレゼントを くれるってひとが、 きみの おもちゃばこのところへ 行って、 そのの きれいな おにんぎょうを とりだして 「はい、 いいこだから このすてきな おたんじょうびプレゼントを あげよう！」なんて いうのと、 まだ もってない あたらしいものを くれるのと、 どっちが いい？

さあて つぎのおはなしは、しろウサギのおうちで アリスが どうしたか。

おぼえてる？ ウサギが てぶくろと おうぎを おとしたときのこと。アリスの こえが そらから きこえてきたのかって びっくりしたんだよね。だから てぶくろも おうぎも ないままじゃあ そりゃあ ごぜんさまのところへも おうかがいできない。そこで ちょっとしてから さがすために ひきかえしたんだ。

ドードーと へんてこどうぶつたちが どこかへ いっちゃんころには、アリスも ひとりきりで あたりを うろついててね。

で、ウサギさん どうしたと おもう？ なんと アリスを じぶんちの メイドさんと かんちがいして、あれこれ いいつけだしたんだ！ 「メリアン！ いますぐ うちに 行って、てぶくろと おうぎを とってくるでおじゃる！ いそぐでおじゃる！」

ひよっとすると あかい おめめは まえが あんまり みえないのかも。だって アリスと メイドさんは にてもにつかないんだよ？ それでも とっても いいこだったから、ちっとも きをわるくせずに ぜんそくりよくで ウサギのおうちへ むかってね。

つごうよく ドアは あいてて。だって ちりんちりん やることになったら、きつと ほんものの メリアンが ドアを あげにくるからね。そうしたら アリスは なかに 入れてもらえない。それから うんよく ほんものの メリアンには あわないまま かいだんを とことこ のぼれて。アリスが どろぼうだって つかまえられたら たいへんだからね！

あがって すすんで ウサギのおへやに はいると、そのの テーブルのうえに てぶくろが おいてあったから、きつと とって でていこうとした そのとき、たまたま めにはいったんだ。テーブルのうえの こびんが。もちろん あのことば 「ノンデ！」って ラベルつき。そりゃあ アリスも のむよね！ まったく、よかった よかった。じゃない？ だって ここで のまなかったら、これから はなす すてきな おはなしも おこらなかつたんだから。そうなるよ やっぱり ざんねんだよね？

もう アリスのおはなしにも なれてきたから、つぎに どうなるか わかるよね？ むりなら きいてて。

おっきく おっきーくなつたんだ。ほんの あっというまに おへやは アリス

で ぎゅうぎゅう、 まるっこい びんに ジャムが ぎっしり つまってる、 ちょうど ああいう かんじ！ てんじょうまで ずっと アリスで、 おへやの どのすみにも アリス！

ドアは うちがわに ひらくものだったから、 やっぱり どうやっても あくすきまがないわけで。 そのとき ウサギが まちくたびれて じぶんで てぶくろを とりにかえってきたんだけど、 もちろん なかに はいれなくて。

で、 どうしたと おもう？（さあて ここで さしえ。） トカゲの ビルをおうちの やねに のぼらせて、 えんとつを おりてけて いったんだ。ところが たまたま アリスの かたあしが だんろに つっこんでてね。 ビルが えんとつを おりてくる ものおとが したとき、 かるく ちょこんと けりあげちゃったから、 ビルは はじきとばされて、 おそらへ ぴょーんと でっちゃったんだ。

かわいそうな ビルくん！ そう おもわない？ きっと ものすごく ふるえてたよ！

えっ、そんなワンコちゃんには みえないって？ でもほら、 いまは アリスのほうが ちっちゃくなっちゃったから。 そういうわけで ワンコが おっきくみえる。 しろうサギの おうちで みつけた ちいさな ふしぎな パンケーキ、それを ひとつ たべた アリスは ぐんぐん ちいさくなって そのまま ドアを とおれるようになってね。 そうでないと もう おうちから そとへ でられないところだった。 かわいそう、 じゃない？ だって これからはなす へんてこな ことなんて ゆめにも おもってなかったんだもん。

とにかく ほんとは ちいさな ワンコ、 ね。 かわいい ペットじゃ なあい？ なら ちょっと このようすを みて、 アリスの さしだした ぼうきれに ほえてるよね！ ほら アリスも ちょっと こわがってる、 ずーっと。 だって でっかい アザミの かげに かくれてるし、 こっちに とびかかってくると いけないからね。 そうなったら 4とうだての ばしやに ひかれたのと おんなじくらい アリスが ひどいことになっちゃう！

ペットの ワンコちゃん きみの おうちでも かってる？ いるなら いつも イヌに やさしく、 ちゃんとした えさを あげてると いいんだけど。

むかしむかし あるところに ぼくの しりあいの こどもたちが おりました。 せのたけは きみと おなじくらい。 ペットに ワンコを かっておりました。 なまえは ダッシュ。 これは そのこどもたちから きいた、 たんじょうびのごちそうを あげたときの おはなし。

「しってる？ あるひね、 そういえば きょう ダッシュの たんじょうびだって なって、 いったの。『ダッシュに たんじょうびのごちそうを あげようよ。 あたしたちも たんじょうびに もらうでしょお？』 でね、 いっぱい かんがえて 『じゃあ なにが いちばん いいかな、 じぶんたちの たんじょうびなら？』 でね、 また いっぱい かんがえて さいごに みんなで ひとつに きめたの。『じゃあ オートミールの おかゆだね、 ぜったい！』 だからね、 ダッシュも ぜったい きにいるって おもったの。

おてつだいさんの ところに 行って、 ひとさら おかゆを つくってって 行ってね、 それから ダッシュを おうちに よんできて いったの。『さあ ダッシュ、 おたんじょうびのごちそう あげる！』 ダッシュが よろこんで とびはねるって おもったのに、 なのにかみついてきて！

だから まえに おさらを おいて、 いったの。『もう ダッシュ、 がつつか

ないの！ いいこだから おとなしく たべて！』

で、 ダッシュ ペロペロって したを つけたんだけど、 そうしたら、 その、 とんでもない かおに なっちゃって！ でね、 あのね、 だいきらいだって、 もう ちっとだって たべるもんかって！ だから あたしたち スプーンで ぜんぶ のどに ながしいれなきゃいけなくって！」

アリスも この ワンコに おかゆを あげるのかな？ するとは おもえないけどね。 そんなの どこにも もってなかったし、 さしえにも おさらがないしね。

ワンコから にげだしたあと、 アリスが どうなったか しりたい？ ほら じゃれるには ほんと おおきすぎる どうぶつだったからね（たとえば カバの こども。 いっしょに たのしく じゃれられる？ むりだよ、 きっと でっかい あしで ずどんと パンケーキみたく ペしゃんこに されちゃう！）。 だから きづかれずに にげだせたとき アリスは ほっとしたんだ。

で、 あちこち うろついたんだけど、 なにを したら もとの おおきさにもどれるのか さっぱりで。 そりゃあ なにかを のみくいすれば いいんだろうけど。 これまでも そうだったしね。 でも それが なんなのか おもいも つかなくって。

そんなとき ふと あらわれたのが でっかい キノコ。 せたけが たかくて つまさきだち しないと てっぺんに あるものなんて みえなくって。 で なにが みえたとおもう？ こんなもの ぜったいに いいあてらんないね！

なんと おっきな あおムシ。

いまから はじまるのが アリスと あおムシのおはなしなんだけど、 まずは このさしえを よく みてね。

あおムシの まんまえに おいてある へんてこなのは みずギセル。 けむりをすうために つかうんだ。 ながい くだを とおって けむりが、 へびみたく うねうね やってくるってわけ。

で、 あおムシの ながっぱな、 しゃくれあご、 わかる？ というより、 はなみtain あごみtainなもの、 が ただしいかな？ ほんとは あしのうちの ふたつなんだけど。 ほら イモムシは あしが たくさん あるよね。 そのしたを みてくと どんどん ついてるし。

きっと めんどうだと おもうんだけど、 あおムシは まいばん なくなっていないか あんなに たくさんの あしを かぞえるんだって！

それに すごく めんどうだと おもうんだけど、 どのあしから うごかしたらいいか きめなきゃいけないんだってさ。 なんせ 40も 50も あしがあるから、 ちょっと あるくにしても どのあしから うごかしたらいいか きめるだけで それなりの じかんが かかって、 もう あるくどころじゃないよ！

ともかく アリスと あおムシ いったい なにを おはなししたんだろうね？

その、 アリスは いったんだ、 おおきさが いろいろ かわって もう わけが わからないって。

すると あおムシが、 ちょうど いまの おおきさ、 これを どう おもうって きいてきてね。

アリスの へんじは、 もうちょっとくらい おおきくなりたい —— 8センチじゃあ あんまりな おおきさだって！（8センチを はかってみるとしたら なかゆびくらいの おおきさかな、 ほら このときの アリスが それくらい。）

そこで あおムシが おしえてくれて。 キノコの かたはしを たべると おおきくなって、 もうかたはしを たべると ちっちゃくなれるぞって。

なので アリスが ふたきれ ちぎって おそろおそろ くちに いれると、 まあ けっこう いいかんじの せかっこうに なんとか なれてさ！ ようやく ごぜんさまのところへ むかったんだ。

アリスが ごぜんさまのところへ うかがった おはなし、 ききたい？ ほんとおもしろい おうかがいになってね。 きたいして いいよ。

もちろん はじまりは ドアの ノック。 でも だっれも でてこなくて。 だから じぶんで あけることに。

さあて さしえに めをやると、 なかに はいった アリスの めに とびこんだものが ちょうど わかる。

ドアが まっすぐ だいどころに つづいていてね。 ごぜんさまは おへやの まんなかに すわって あかちゃんを あやしてる。 あかちゃんは わんわん。

スープは ぐつぐつ。 コックさんが スープを まぜまぜ。 ネコ —— チェシアネコが —— にやにや、 チェシアネコは いつも そうなんだ。 アリスが はいってきたときは ぜんぶが こんなぐあい。

ごぜんさまは すてきな ぼうしと ガウンを みにつけてる、 よね？ でも ざんねんながら かおは あんまり すてきじゃあなくて。

あかちゃんは —— まあ きみだって もっと かわいいこ みたこと あるとおもうんだけど、 その、 もっと おとなしいこ、 ね。 でもね いま よおく みておいてね、 つぎ でてきたときに わかるかどうか たしかめるから！

コックは —— まあ もっと うでききの コック ひとりふたり あったことあるかもね。

でもでも きっと これより ものすごい ネコは みたこと ないはず！ だよね？ ちょっと こんなネコちゃん かってみたくない？ みどりの めが あいらしくって、 えがおも とっても かわいくて。

ごぜんさま アリスには ひどく ぶしつけで。 まあ しょうがない。 その、 じぶんの あかちゃんなのに 「ブタ！」とか よぶくらいだし。 ブタじゃない、 よね？ あと コックに アリスの くびを たたききれって いったんだけど、 もちろん そんなこと コックは しなくて。 さいごには あかちゃんを こっちに なげつけてきてさ！ だから アリスは あかちゃんを うけとめて、 つれだしたんだ。 そうするしか なかったと おもう。

というわけで おうちからはなれて、 もりを めけて、 かわいくない そのあかちゃんを かかえて行ってね。 すごい じたばたしてたから つかまえておくのも ほんとおもしろい。 でも さいごには ひだりあしと みぎみみを ぐっと つかめば いいって きづいたんだ。

でも ふつうの あかちゃんを こんなふうに つかんでみちゃあ いけないよ、めっ！ こんなふうに あやされたい あかちゃんなんて あんまり いないからね！

さて、あかちゃんは ぶーぶー いいつづけてるわけで。だから アリスも まがおで いわなきゃいけない。「もし ブタに なっちゃうんなら もう なんにも してあげなくてよ、 いいこと！」

って おわりに かおを のぞいてみたんだけど、 いったい どんなことになっただと おもう？ さしえを ごらん、 こたえあわせ。

「えっ、 アリスが あやしてるの、 あのあかちゃんじゃ ないよ？」

ほおら、 やっぱり わかんなかった。だから よく みておいてって いったのに！ うん、 これが あのあかちゃん。 こブタに かわっちゃったんだ！

なので、 アリスは したに おろして、 もりのなかへ はなしてね。そこで ひとりごと。「ほんっと かわいくない あかちゃん！ でも ブタに なったら ちょっとは ましかも。」

そのとおりだと おもわない？

ひとりぼっち、ひとりぼっち！ かわいそうな アリス！ あかちゃんどころか
ブタも もう いっしょじゃない！

そんなとき チェシアネコが あたまのうえの きに やどってたもんだから、
とっても うれしかったこと わかるよね。

たしかに ネコは とっても すてきな えがおなんだけど、 ちょっと みて、
はが ぎっしり！ アリス すこしだけ ひいてない？

うん、 まあ、 すこし。 でも やっぱり ネコだって はは いるわけで。
それに いらいらしてたら なるべく にやにやは しないしね。 だから それな
りに アリスも うれしくって。

アリス とっても おすまししてなあい？ あたまを すくくと もたげて、 り
ょうてを うしろに まわして、 まるで ネコに ものを おしえてるみたい。

そういえば おしえておきたいことが ちょっと あるんだ。 アリスと ネコの
このさしえを みておいてね。 さあて へそを まげないでね、 おねがい！
ほんの まめちしきだから！

きの そばに、 キツネノテブクロが あるの わかる？ これ、 どうして キ
ツネノテブクロって いうか しってる？ もしかして キツネと かかわりあると
か おもってる？ まちがい！ キツネは てぶくろ はめないよ！

もともとは 「こびとの てぶくろ」って いったんだ。 でも 「こび」って
きつねの ばけものでも あるからね。

ここで まめちしきは おしまい。 いらいらが おさまるまで ちょっと まっ
てるね。

どう？ すっかり おちついた？ もう だいじょうぶ？ くちの すみも ひん
まがってない？ じゃあ つづきを。

「チェツシャにゃん！」って、 アリスが よんでね。（ネコにしては すてきな
なまえじゃなあい？）「おしえてちょうだい、 ここから どちらに いったほうが
よくって？」

すると ネコは、 ぼうしやの ところへ いきたきゃ こっちの みち、 やよ
いウサギだったら あっちの みち、 って おしえてくれてね。「どっちも へ
んにゃ やつ！」って ネコは いうんだけど。

そのあと ネコが きえちゃって！ まるで ロウソクの ひが きえるみたいに
！

まあ アリスは やよいウサギのほうへ あるきだすんだけど、 すすんでいくと
また そこに ネコが いてさ！ そんなに すぐ でたり きえたりは いやだ
って 行ってやったんだ。

すると こんどは ネコも きえるのが すごく ゆっくりになって、 はじめ
が しっぽ、 さいごが にやにや。 へんてこじゃあない？ ネコが いなくなっ
てるのに、 にやにやが あるなんて。 みてみたい？

このページの すみを めくってみたら、 にやにやを みる アリスが でて
くるよ。 ネコを みてたときよりも、 ちょっとだけ びくびくしてない、 かな
？

これは おかしな おちゃかい。 チェシアネコと わかれたあと、 アリスは チェシアネコの おしえてくれたとおり、 やよいウサギと ぼうしやに あいにいったわけ。 みつけたとき そいつらは おおきな きのしたで おちゃかいをしていてね。 あいだには ヤマネも すわっていて。

テーブルに ついてたのは この3にんだけだったんだけど、 そのまわりには ずらりと ティーカップが ならんでてね。 テーブル ぜんたいは みえないけど、 ほら さしえの ぶぶんだけでも カップが 9こも あるよね、 やよいウサギの てにあるのも くわえると。

そいつが やよいウサギ。 みみが ながくて、 かみに わらが ぐちゃぐちゃからまってる。 わらが あるって あたまが おかしい しるしだからね —— なぜかは わからないけど。 ぜったいに かみのけに くくりつけちゃ だめだよ。 ひとに あいつの あたまは おかしいって おもわれるからね！

それから テーブルの はしに すてきな みどりの アームチェアが あったんだけど、 それが まるで アリスの せきみたいに みえてね。 だから そこへ 行って こしを おろしたんだ。

そうして やよいウサギと ぼうしやと ながなが おはなしを して。 ヤマネは あんまり しゃべらなかつた。 ほら いつも ぐっすり ねむってるからね、 たまに ちょっと おきたりするだけで。

ねむってるぶんには やよいウサギにも ぼうしやにも つかいがってが いいんだよ、 だって あたまが まるくて ふかふかだから、 まくらみたいで。 ひじを ついても、 もたれかかっても、 きがねなく はなしを しても いいんだ。

ふつうは あたまを まくらがわりに されるのなんて いやだよな？ でも ヤマネみたく ぐっすり ねむってたら、 きづかないよ。 だから きにならないんじゃないかな。

ざんねんながら アリスは のみもの たべものを すこしも もらえなくって。 でも しばらくしたら おちゃも バタートーストも ごじゆうに どうぞ って ことになって。 ただ いったい どのせきで たべたんだろうね、 そもそも おさらじたいがないし。 おさらがあるのは ぼうしやだけで。 いや、 きっと やよいウサギにも あったかも。 だって みんなで じゅんぐり せきをかえたら（それが このへんてこな おちゃかいの きまりだからね）、 つぎに アリスが すわるのは やよいウサギの せきだし、 そのとき ウサギが じぶんの

おさらに ミルクつぼを ひっくりかえしてらって きづいたみたいだし。 きっと おさらと ミルクつぼは おっきな ティーポットの うらに かくれてたんだよ。

このぼうしやは いつも うりものの ぼうしを もちあるいていてね。 あたまに のっかっているのも そもそも うりもの。 ほら、 ねだんが ついてるよね —— 「10」と 「6」 —— これは 「ぎんか10まい どうか6まい」 ってこと。 こんな のへんな うりかたじゃない？ あと きれいな ネクタイをつけてない？ ほら いいかんじの きいろい ネクタイ、 あかの みずたまいり。

そいつが たちあがって アリスに ひとこと。「かみを きりたまえ！」 おおきな おせわ、 だよな？ アリスの かみって きらなきゃいけないかな？ とっても かわいらしい ながさだと —— ちょうど いい ながさだと おもうんだけど。

これが まえに おはなしした きれいな おにわの いったく。 ほら、 アリスは さいごに なんとか ちいさくなれたから、 あのちいさな ドアも ぬけられてね。 たぶん にほんあしで たった ネズミくらいの せたけ。 なので これは もちろん ちっちゃな バラの きで、 こいつらは ちっちゃな にわし。

なんて おもしろい こびとさんたち！ いや、 ひと、 なのかな？ たぶん いきてる トランプなんじゃないかな、 あたまと てあしが ついてるから、 こびとみたいに みえると。 で、 あかい ペンキで なにを しているの、 かな？ と、 いうことで アリスに わけを はなしたんだ。 ハートの クイーンが そのあたりに あかい バラの きが ほしいって いったらしいんだけど、 なのに かわいそうに このにわしくんたちは おおまちがいを しでかして、 かわりに しろいのを うえちゃったんだ。 それで もう びくびくしてね、 だって クイーンさま きっと はらを たてて、 みんなの くびを ちょんぎれって いうに きまってるからね！

ものすごい こわい じょおうさまで、 だれかに はらを たてると きまって そういうんだ。「くびを はねよ！」 だれも だれかの くびを ちょんぎったり しないんだけどね。 だって いうことなんて だれも きかないし。 でも いつも そういうふうに いうんだ。

さあて おいつめられた このにわしたち、 どうしてみたのか わからない？ バラを あかく ぬってみたんだ。 おおあわてで、 クイーンが くるまえに やっちゃえってね。 そのあとなら たぶん クイーンも もともと しろい きだったなんて わからないしね。 そうなれば たぶん こびとたちも くびを ちょんぎられないで すむし！

ほら きに 5りんの おおきな しろバラが あるよね —— これを みんな あかくするのは けっこう たいへんだよ！ まだ 3つと はんぶんしか おわってないし、 ほら、 それに せめて むだばなしで てを とめたりしなけりゃ —— がんばろうよ、 こびとさん、 がんばってよ！ そうしないと おわらないうちに クイーン きちゃうよ！ きに しろバラが あるって しられたら どうなると おもう？ きっと 「くびを はねよ！」 って。 もう がんばれって、 おまえら！ いそげ、 いそげ！

クイーンが きちゃった！ おこってない？ ああ、 かわいそうな アリスちゃん！

ゲートボールは やったこと ある？ いろんな いろの おおきな きの ボールが あってね、 それを ころがして、 はりがねの ゲートの あいだに とおすんだ。 ながい とってつきの おおきな きづちが あって、 それで ボールを こづいて ころがすんだよ。

さあて さしえを みてごらん。 ほら アリスが ゲートボールを やってるるところだよ。

「でも できてないよ、 なんか よく わかんない おおきいの かかえてるし！
ねえ、 あれじゃあ きづち もてないよ？」

うん、 あのね、 あの よく わかんない おおきいの（ほんとの なまえは フラミンゴなんだけど）、 あれが つちなんだよ！ このゲートボールでは ボールは いきた ハリネズミ —— しってる？ ハリネズミって ボールみたく まんまるに なるんだよ —— で あと つちが いきた フラミンゴって わけ！

それで アリスは ただいま ちょっと おやすみちゅう。 ひさしぶりの おともだち、 ごぜんさまと おはなしするためにね。 もちろん なくさないよう つちを わきに かかえててね。

「でも おともだちじゃないし、 あんなやつ！ あかちゃんを ブタっていうし、
アリスの くびを たたききれって いったし！」

うん、 あれは ほんの じょうだん。 アリスの くびを たたききれだなんて。 あかちゃんは —— まあ ほんとに ブタだったしね！ あのえがお みてごらんよ！ ねえ、 あのくち アリスの あたまより でっかいよね。 でも あれで みえてるのは はんぶんだからね！

でも ちょっとだけ おはなししたところで、 やってきた クイーンが アリスをつれてっちゃってね。 グリフォンと ウミガメフーミに あわせるんだって。

グリフォンが なにか しらないの？ えっ！ じゃあ なにを しってるの？ こいつは もんだいだ。 でもでも、 さしえを ごらん。 あかい あたま、 あかい つめに みどりの うろこ、 このいきものが グリフォン。 これで わかったね。

それから そのとなりが ウミガメフーミ。 あたまが こウシなんだ。 だって ウミガメフーミの スープには こウシの あたまを つかうからね。 これで わかったね。

「でも こいつら なにしてんの、 アリスの まわりで あんなに ぐるぐる？」
えっ、 もちろん わかっていると おもってた！ エビの フォークダンスを
おどってるんだよ。

グリフォンと ウミガメフーミに つぎ あったとき、 おぎょうぎよく きいて
みたら、 きっと また おどってくれるよ。 ただ あんまり ちかよらせない
でね。 かわいそうに アリスみたく つまさきを ふまれちゃうから。

ハートの クイーンが タルトを つくる はなし きいたこと ある？ そのあと どうなったか いえる？

「うん、 あったりまえ！ うたが ぜんぶ おしえてくれるじゃない！

ハートの クイーンが タルトを つくる

なつの さなか いちにち かけて

ハートの ジャックが タルトを ぬすむ

かくれて こっそり ひとりじめ！」

うん そうだね、 うたは そうなる。 ところが うたが こうだからって ジャックに おしおきするとか なしですよ。 まず わるい やつとして つかまえなきゃ いけなくて、 てくびに くさりをつけて、 ハートの キングのまえに つれてって、 ちゃんとした おさばきを しなきゃね。

さあて はじめにある おおきな さしえを みれば、 このおさばきが どんなに おおごとか わかるよね。 さばくひとは キング！

キングって とっても えらい、 よね？ でも そんなに たのしくなさそう。 かつらのうえに のってる おおきな かんむりは おもそうで きゅうくつそうだしね。 でも やっぱり どっちも つけとかないと。 でないと あいつが さばくひとで キングだって みんなに わかんないしね。

で、 クイーン なんだか むすっとしてない？ テーブルのうえに あるのは タルトの おさらだけ、 いっしょうけんめい つくったのにね。 それで いたずらな ジャックを みつけて（てくびから くさりか たれてるの わかるよね？） 、 おまえが わたしの つくった タルトを ぬすんだんだ、 って。 だから ちょっとくらい むすっとしてたって むりもないってわけ。

しろウサギが キングの そばに たちながら、 あのうたを よみあげてて、 そいつが どんなに いたずらな ジャックかって みんなに つたえててね。 で、 はなしあうひとが（ほら、 はこがたの ぎせきに カエルと アヒルの ふたりが みえるよね） そいつの 「ゆうざい」「むざい」 どっちかに きめるってわけ。

さあて これから おはなしするのは、 アリスに なにが おこったか。

でね アリスも はこがたの ぎせきの そばに すわってて。 まのあたりにしたひと ってことで よばれたんだ。 まのあたりって なんのことか わかる？ わるいひとが、 おさばきされるようなことを した、 そのげんばを みたってこ

となんだ。べつにただこのおさばきでだいじなことをしってるだけでもいいんだけど。

ところがアリスはクイーンがタルトをつくるとこなんてみてないし、ジャックがタルトを食べるところもみてない。ほんとのところ、なあんにも知らない。なのにいったいどうしてよびだされたのか。そんなのぼくにもわからない！

とにかくみんながよびたがってね。でしろウサギがおおきなラッパをふいて、「アリス！」っておおごえだして。でアリスはおおあわてでたちあがってそれから――

それからなにがおこったとおもう？ うん、スカートがはこがたのざせきにひっかかって、ざせきがひっくりかえって、さらにはなしあうひとたちもかわいそうにそこからおっこちちゃって！

12にんぜんいんわかるかやってみようね。ほら、おさばきをはなしあうひとのかずは12のはずだから。ええと、カエル、ヤマネ、クマネズミにイタチ、ハリネズミにトカゲ、チャボ、モグラ、アヒルにリス、でモグラのうしろにながいくちばしのわめいてるとりがいるね。でもまだ11。あともうひとりみつけないと。

あっちいさなしろいあたまがモグラのうしろからでてる。ちょうどアヒルのくちばしのした？とにかくこれで12。

さしえをかいたひとによるとうるさいとりさんはコウノトリのひなで（もちろんわかったよね？）、ちいさいしろあたまはハツカネズミのこどもなんだって。かわいいどうぶつじゃなあい？

アリスはみんなをそろりそろりひろいあげてね。あんまりけがしてないといいんだけど！

あらあら これは！ いったい どういうこと？ アリスに なにが あったんだ？

さて それを これから できるかぎり おはなしするね。これは おさばきがおひらきに なったところ。キングが 12にんに ハートの ジャックの ゆうざい むざいを きめると 言ってね —— つまり タルトを ぬすんだのは そいつなのか、ほかの やつが たべたのか きめるって ことなんだけどね。でも いじわるな クイーンは とにかく おしおきするって さきに きめたくって。こんなの ただしくないよね？ だって ほら、タルトを ぬすんでないんだったら もちろん おしおきなんか だめだし。おしおきを うけるにしても じぶんの やったことにじゃないと、ね？

だから アリスは いったんだ。「がらくたの からっぽ！」

すると クイーンは こういう。「こやつの くびを はねよ！」（これは おこったときの おきまりの ことばだったね。）

で アリスの へんじ。「あんたたちなんか こわくない！ ただの トランプじゃないの！」

となると みんな ぶんすかするわけで。ちゅうに とびあがって アリスのう えへ みんなして ふりかかってきまして。まるで ざあざあ にわかあめみたいに。

つぎに どうなったかなんて おもいも よらないよ。そのつぎはね、アリスがこのへんてこな ゆめから めが さめたんだ。きづいたら トランプはただ きから おちてくる はっぱに なってて、かぜが びゅーんて かおのほうへ ふきおろしてきててね。

アリスみたいに へんてこな ゆめ みられたら、すてきじゃなあい？

いちばん いい やりかたは こう。まず きのしたで ねそべってね、じっと まったあと ついに しろウサギが とけいを てに はしってきたら そこでめをとじて、あとは アリスちゃんに なったつもりで。

さようなら、 美しい アリス、 さようなら！

(おしまい)

Original Credit

The Original Text: *The Nursery "Alice"* (1890)

The Original Author: Lewis Carroll (1832-98)

えほんのアリス

<http://p.booklog.jp/book/34353>

著者：ルイス・キャロル

訳者：太久保ゆう

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」

(<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>) によって公開されています。

上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に利用・複製・再配布することができます。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/34353>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/34353>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.